



# 『地域に向けた手洗い指導の拠点の構築～継続した取り組み～』



昨年度からつながりプロジェクトとして学生による「手洗い講習会」を開催しています。特に学生が講習を実施することに対して参加者の方から、高い評価を得ることが出来ました。今年度も昨年度と同じく、出来るだけ多くの方に参加していただけるように骨塩量の測定と骨粗鬆症の講話を同時に行いました。

今年度も尼崎市の全ての公民館、中央公民館、立花公民館、武庫公民館、大庄公民館、園田公民館、小田公民館にご協力いただき、手洗い講習会を企画させていただきました。そのほとんどが既に終了しています。

公民館では学生が主体となって講習会を運営しました。そのためにつながりプロジ

エクトの授業では、7月末までの授業の中で、学生は細菌検査やATP（アデノシン3リン酸、汚れの指標となる物質）の測定や蛍光ローションを用いた手洗い実験を行い手洗いの重要性を理解し、衛生的な手洗い方法を習得しました。そして、手洗い講習会を企画して、事前に予行練習をして、何度も検討と修正を行って現地に臨みました。準備の段階で学生は手洗いについて理解する、そして実行できる、さらに人に教えるというようにステップアップしていきます。参加者は高齢者の方が多いので、特に骨塩量を測るときは転倒などに注意して安全を確保する事など、事前学習、準備をしました。



講習会は、受付、骨塩量の測定、骨粗鬆症の講話、感染対策の講話、蛍光ローションを用いた手洗い講習の順で進行了しました。

参加者の方々のご協力のおかげで、「手洗い講習会」を終了後には多くの学生が地域の方々と交流をもつことの楽しさを感じることができたようです。頑張って準備して自分が専門的なスキルを身につけることで、より充実した交流ができることを実感したのではないのでしょうか。また、参加して下さった方々、参加者の募集や準備などでご尽力いただいた公民館の方々への感謝の気持ちも、今後の学生の成長に繋がることと思います。



# 地域で自分らしく暮らすための高齢者支援プロジェクト

2016年より兵庫県阪神南県民センターの実施する大学生による地域連携推進支援事業に採択され本年度も引き続き「地域で自分らしく暮らすための高齢者支援プロジェクト」を展開しています。このプロジェクトでは、地域で自分らしい生活を継続することを目的とした在宅認知症高齢者への支援と市民へ向けた認知症予防および高齢者健康維持支援を学生の企画で実施しています。

1) 在宅で暮らす認知症高齢者への支援  
自分らしく生きるための土台となる人生で大切にしてきた価値観や生活の中での強みや生きがいをつなげ、本人および家族の地域生活能力が向上するよう個別支援します。園田苑のご協力を得て、今年は園田地区等にお住まいの認知症高齢者に対して、学生訪問によるお話し、お出かけ支援、元書道の先生による書道・書字教室、お化粧品支援などを実施しました。一部は、現在も進行中です。

2) 市民に向けた認知症予防  
7月に猪名寺自治会の要請を受け、講師を招き認知症予防講演と相談会・無料定期健診を開催しました。その際に学生が企画した、お家でTVを観ながら簡単にできる脳若返り体操も実施され、参加された高齢者の方々から好評を得ました。  
3) 高齢者に向けた健康維持支援  
塚口第三住宅町内会の高齢者の方々にご協力を得て6月に実現しました。学生が企画した夏ばてを乗り切るためのレシピの紹介や、今から用意しておくことと便利な災害時に必要な高齢者用の備えについて講演をさせていただきました。

このプロジェクトは、地域高齢者への支援ではありますが、学生たちは逆に高齢者の方々の胸を借り、その中で地域支援の経験をさせて頂いています。今後も学生と地域との相互関係を深めながら、支援を展開していく予定です。



# Newsletter



園田学園女子大学 園田学園女子大学短期大学部 地域連携推進機構  
〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7丁目29-1 TEL: 06-6429-9921 FAX: 06-6422-8523 E-mail: chiikirenkei@sonoda-u.ac.jp



## 「3大学合同報告会」



2017年10月14日（土）、生田文化会館大ホール（神戸市）において、COC+「子育て高齢化対策領域」3大学合同報告会が開催された。昨年に続き、神戸大学を主幹校とする地域創生推進事業の一環として、医療福祉専門職養成課程を有する3大学が教育研究の成果・知見の共有を図るため企画されたものである。

第一部では、石原逸子氏（神戸市看護大学基礎看護学領域教授）、中野博文氏（本学人間健康学部長）による開会挨拶があり、続いて本事業の概要説明として、藤本由香里氏（神戸大学地域連携推進室特命助教）より「知っていますか？兵庫県～地域創生って何だろう～」兵庫県の直面する少子高齢化、人口減少などの課題が指摘された。

第二部は、相原洋子氏（神戸市看護大学准教授）、宮田さおり氏（本学准教授）の司会により学生発表「専門職学生として地域活動で学んだこと」が行われた。神戸市看護大学看護ゼミ4年生からは「地域活動で学んだこと」、「地域活動での学びを実習でどう活かしたか」、本学人間健康学部食物栄養学科2年生からは「食育SATシステムを用いたライフステージ別地域住民に対する適切な食事選択の構築指導について」、本学人間健康学部人間看護学科4年生からは「母子保健における保健師の役割～様々な職種がいる中でなぜ保健師が必要なのか～」、神戸大学医学部保健学科作業療法学専攻2年生からは「Activity Area Of Occupational Therapist」、神戸大学大学院生松田直佳氏（保健学研究科博士前期



課程）からは「産後女性に対する取り組み～産後のマイナートラブルについて～」の発表があった。それぞれの体験をもとに、専門性を学ぶ大切さや、他職種連携の重要性を実感したことが報告された。質疑応答では地域活動で直面した具体的な課題が話し合われた。ポスター掲示をもとにした情報交換会でも、異なる領域を学ぶ学生同士が熱心に議論を交わっていた。

閉会挨拶では高田哲氏（神戸大学地域連携センター長）が子育て支援や高齢化対策への各大学の取り組みに期待を述べられ、盛会のうちに報告会は終了した。

（本学COC+学術研究員 久留島元）



## つながりプロジェクトの様子

つながりプロジェクトは、学部や学科の垣根を越え、将来の夢が混在する21のチームを編成します。

いろいろな夢や目標を持った学生たちが協力しながら尼崎市にある21の課題へ挑戦します。チームは様々な社会の人と協働して課題の解決を目指します。学生たちが地域で学び、経験し、失敗と成功を重ねて出した答えは課題を解決する糸口となります。見つけた答えから社会へ企画、提言を行います。

社会では様々な職種とのつながりが必要となっています。この学科横断型の授業で他の学科のものの見方を学ぶことは将来に役立ちます。

このつながりプロジェクトでの経験を通して、地域に貢献できる人間力の強い女性を育成します。

### 『子どものための郷土学習教材をつくる』

つながりプロジェクト8 担当：総合健康学科 山本起世子



幼児向け郷土学習教材として、塚口本町に鎮座する、塚口神社秋祭りについての紙芝居を作成しているところです。

### 『おもしろき こともなき世を おもしろく』

つながりプロジェクト12 担当：NPO法人あまがさき環境オープンカレッジ 大原一憲



「大庄おもしろ広場」で今年生まれた子ヤギのユキちゃんを“センセイ”に、「命」と「つながり」について考えました。

### 『地域の歴史を知り、地域への誇りや愛着を育む』

つながりプロジェクト15 担当：あまがさき市民まちづくり研究会 正岡茂明



5月25日(木)、昨年同様、尼崎城の歴史を知るべく、文化財収蔵庫で説明を受け、その後復元尼崎城の工事現場も見ました。

### 『幼稚園・小学校・高等学校での効果的なタブレット活用を考えよう!』

つながりプロジェクト1 担当：人間健康学部 堀田博史



尼崎市内の小学校教諭を招いて、算数の模擬授業を行いました。学生も児童になりきって、先生からの問いかけに答えています。

### 『まちづくり企画実践演習』

つながりプロジェクト10 担当：尼崎南部再生研究所 綱本武雄



2017年9月23日に、学生と市民45人が参加して尼いも収穫。400株の収量は、約600キロだった。

### 『尼崎の森中央緑地で生き物のつながりを楽しむ環境学習を作ろう』

つながりプロジェクト13 担当：尼崎の森中央環境学習森づくりコーディネーター 石丸京子



木の葉のこすり出しで、豊かな海の絵を作成。森と海のつながりを説明しました。

### 『あまっこキャリア教育プログラムの開発』

つながりプロジェクト18 担当：NPO法人JAE 塩見優子



いろんな生き方を知るため、ゲストそれぞれの生き方を聞きました。



## 地域志向教育研究

人間健康学部 難波宏司

### 学生を主体とした地域学校への情報教育応援活動

#### 小学校でのプログラミング教育支援

2020年からの新しい学習指導要領では小学校でのプログラミング教育が導入されることになりました。その影響で、小学校でのプログラミング教育がブームになっています。プログラミング教育の意義の捉え方は様々です。本研究では、世界的な情報教育の流れを分析し、現ロシア大学 Jeannette Marie Wing 教授の「Computational Thinking」に基づき、プログラミング教育の目的を、ものごとを抽象化して(実際の事象をプログラムに置き換えて)考えるトレーニングを通して、科学的な物の見方や創造性の育成



写真1

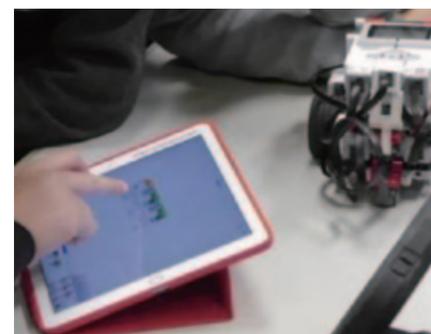


写真2



写真3

とプログラミングに関する興味・関心の醸成としました。その目的に適した教材として、レゴ社のEV-3ロボット(写真1、写真2)を選び、授業で活用できるよう11台揃えました。

小学校では、次期の学習指導要領で、教科として英語が特別な教科として道徳が導入され、その準備で多忙をきわめています。プログラミング教育の実施には複数のサポートが必要とされその準備も大変です。本研究では、本学学生が各小学校の実情に応じて、ロボットと指導テキストの貸し出し、指導情報の提供とアドバイス、教員研修、教育実施の補助

(サポータ)、児童へのゲストティチャーとしての指導など様々なサポートの在り方の実証実験も行っています。昨年度、有志の学生により、立花西小学校で、クラブ活動の時間にプログラミングの指導を行いました。ほぼ全員が自由にプログラミングできるようになりました。本年度は、プロジェクトに参加している学生が小学生に指導します。先ず11月4日、杭瀬小学校の土曜講座で4名の学生が15名の小学生および保護者にロボットプログラミングの課題を与えて指導しました(写真3)。2時間ほどの実習で全グループが課題を達成できました。



## 地域志向教育研究

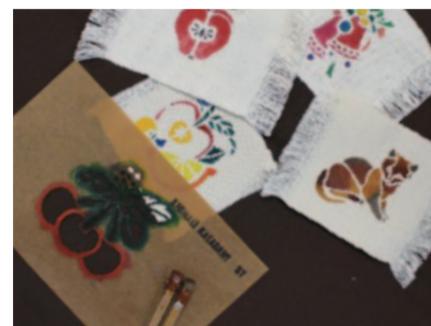
人間健康学部 食物栄養学科 深津智恵美

### 「生活」をテーマに、地域に根差した生涯学習プログラムの開発《食生活編・衣生活編》



生活の営みの多くは、古くから経験に基づく細かな工夫や知識が祖母から母へと受け継がれ、「おばあちゃんの知恵」として伝承されています。それらの「生活の知恵」の中には合理的ですばらしいものがあり、現代でも通じることに驚かされます。

本研究は、本学の総合生涯学習センターのノウハウを生かした学習プログラムの開発を行い、その中で、園田の生涯教育を通じて「生活の知恵」を発信することを目的としています。



2016年度の活動は、8月に衣生活編は「みんなのサマーセミナー」に参加し、《わくわくステンシル》(子ども向けステンシル染め)を行いました。また、食生活編としては2017年2月に《地域の特産品を使用した調理実習(田能の里芋)》を実施しました。何れも参加者の感想からは、良い評価が得られました。食生活編では、「このような地域の特産品があることを知らなかったが、今後は“地産地消”で、地域の産物を見直してみたい」「こんな美味しい芋が地元にあ

ったとは、新しい発見があった」等のご感想をいただきました。参加者を対象に、受講アンケートを行い、今後のプログラム開発に生かせる内容を検討しました。

昨年度のアンケート結果をふまえ、2017年度は衣生活編のプログラムを充実し、食生活編も昨年同様に展開いたします。衣生活編は11月に2回の講座を実施します。《洗濯の新表示》では2016年12月に変更となった繊維製品品質表示の規定改正に伴う最新の知識を解説し、《賢い洗濯方法を知りたい》では繊維の性質を知り無駄な洗濯経費を節約する知識を受けたいと思っています。

翌2018年2月には、食生活編《防災クッキング》を実施する計画でおります。総合生涯学習センターの市民向け講座の中で、この研究から得られたニーズに該当するプログラムを挙げ、地域に広めて行きながら、将来は生活を担う立場の女子大学生が進んで参加できるプログラムの構築をして、地域と学生とが共に学ぶ講座へ繋げて行きたいと考えています。